

光学医療診療部

1 構 成 員

	平成 28 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	1 人	(1 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	3 人	
合計	5 人	

2 教員の異動状況

峯田 周幸（部長・教授）（平成 26 年 4 月 1 日～現職）

大澤 恵（副部長・講師）（平成 24 年 1 月 1 日～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 27 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	6 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	20.08	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2 編	(2 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Sahara S, Sugimoto M, Uotani T, Ichikawa H, Yamade M, Kagami T, Hamaya Y, Iwaizumi M, Osawa S, Sugimoto K, Miyajima H, Furuta T. Potent Gastric Acid Inhibition Over 24 Hours by 4-Times Daily Dosing of Esomeprazole 20 mg. *Digestion*, 91(4):277-85, 2015 【消化器内科】 [IF=2.10]
2. Ichikawa H, Sugimoto M, Uotani T, Sahara S, Yamade M, Iwaizumi M, Yamada T, Osawa S, Sugimoto K, Miyajima H, Yamaoka Y, Furuta T. Influence of prostate stem cell antigen gene polymorphisms on susceptibility to Helicobacter pylori-associated diseases: a case-control study. *Helicobacter*, 20(2):106-13, 2015 【消化器内科】 [IF=4.11]
3. Sugimoto K, Ikeya K, Iida T, Kawasaki S, Arai O, Umehara K, Watanabe F, Tani S, Oishi S, Osawa S, Yamamoto T, Hanai H. An Increased Serum N-Terminal Telopeptide of Type I Collagen, a Biochemical Marker of Increased Bone Resorption, Is Associated with Infliximab Therapy in Patients with Crohn's Disease. *Dig Dis Sci*. 61(1):99-106, 2016 【消化器内科】 [IF=2.61]
4. Kagami T, Sugimoto M, Ichikawa H, Sahara S, Uotani T, Yamade M, Hamaya Y, Iwaizumi M, Osawa S, Sugimoto K, Miyajima H, Furuta T. One-day front-loading with four doses of rabeprazole followed by a standard twice-daily regimen provides sufficient acid inhibition in extensive metabolizers of CYP2C19. *Eur J Clin Pharmacol*, 71(12):1467-75, 2015 【消化器内科】 [IF=2.97]

インパクトファクターの小計 [11.79]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Ikeya K, Hanai H, Sugimoto K, Osawa S, Kawasaki S, Iida T, Maruyama Y, Watanabe F. The Ulcerative Colitis Endoscopic Index of Severity More Accurately Reflects Clinical Outcomes and Long-term Prognosis than the Mayo Endoscopic Score. *J Crohns Colitis*, 10(3):286-95, 2016 【消化器内科】 [IF=6.23]
2. Yoshizawa Y, Sugimoto M, Sato Y, Sahara S, Ichikawa H, Kagami T, Hosoda Y, Kimata M, Tamura S, Kobayashi Y, Osawa S, Sugimoto K, Miyajima H, Furuta T. Factors associated with healing of artificial ulcer after endoscopic submucosal dissection with reference to Helicobacter pylori infection, CYP2C19 genotype, and tumor location: Multicenter randomized trial. *Dig Endosc*, 28(2):162-72, 2016 【消化器内科】 [IF=2.06]

インパクトファクターの小計 [8.29]

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 大澤恵、食道癌の内視鏡NBI診断. 今野弘之編、消化器外科医に必要なちょっと先いく画像診断. メディカルレビュー社 34-38, 2015. 【消化器内科】

2. 大澤恵、抗血栓薬の内服中に内視鏡的処置を行う場合の休薬期間とヘパリン置換法を教えてくださいませんか？加藤明彦編、いまさら訊けない！透析患者薬剤の考えかた・使いかた。中外医学社 182-186、2015。【消化器内科】

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 27 年度
特許取得数（出願中含む）	0 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 27 年度	
(1) 科学研究費助成事業（文部科学省、日本学術振興会）	0 件	(0 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成	1 件	(94 万円)
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(6) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(7) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(8) 奨学寄附金	0 件	(0 万円)

(4) 科学技術振興機構(JST) による研究助成

「石英ガラスを用いて接触観察を可能とした処置用消化管内視鏡の開発」科学技術振興機構（JST）研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）探索タイプ、研究責任者：大澤恵、平成 27 年 1 月 1 日～平成 27 年 12 月 31 日、平成 27 年度 94 万円

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	0 件	1 件
(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	3 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

大澤恵、『小腸疾患の内視鏡診断と治療』、第26回日本消化器内視鏡学会東海セミナー、2016年1月17日、浜松（招待講演）

3) シンポジウム発表

大澤恵、『小腸検査における読影補助～医師の立場より～』、第28回日本消化器画像診断情報研究会静岡大会、2016年2月21日、浜松（シンポジウム発表）

4) 座長をした学会名

大澤恵、『小腸検査における読影補助』、第28回日本消化器画像診断情報研究会静岡大会、2016年2月21日、浜松（シンポジウム企画、座長）

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

大澤恵： 日本消化器病学会 本部評議員、東海支部評議員
日本消化器内視鏡学会 学会評議員、東海支部評議員
日本カプセル内視鏡学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	1件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

大澤恵 World Journal of Gastroenterology（中国） Editorial Board PubMed 登録有 IF 有

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

大澤恵 9回 World Journal of Gastroenterology（China）

大澤恵 1回 World Journal of Gastrointestinal Endoscopy（China）

大澤恵 1回 Geriatrics & Gerontology International（Japan）

9 共同研究の実施状況

	平成27年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成27年度
産学共同研究	1件

- 『内視鏡用フードおよび同内視鏡用フードを備えた内視鏡の開発』ショーダテクトロン株式会社との共同開発

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 早期消化器癌に対する安全かつ確実な粘膜下層剥離術(ESD)の手技の確立

早期消化器癌に対する粘膜下層剥離術(ESD)は、狭い空間の中で薄い消化管壁を処置する難易度の高い内視鏡治療であり、安全性の高い手技の確立を検討課題として取り組んでいる。平成 27 年度は高齢者における胃癌 ESD の治療成績の検討および大腸 ESD における PGA シート被覆法の有用性について検討を行い学会にて報告した。

2. 接触視野確保を可能とした新型内視鏡先端キャップの開発

消化管内視鏡は治療内視鏡での役割も増している。治療処置においては対象物に接触すると視野が得られない、いわゆる“赤玉現象”を回避するため、これまで筒型先端キャップが多く開発されて臨床現場で使用されている。しかし、このデバイスは筒内に血液や残渣が混入する場合に容易に視野が障害される。本研究では筒型先端キャップの欠点を改善することを目的に、対象物と CCD カメラの間の空間を透明度の高い石英ガラスやシリコン素材で確保した新たな内視鏡先端デバイスを開発している(特願 2013-090155)。上部消化管内視鏡用に製作したシリコン素材による先端キャップは『コンタクトビューフード』として製品化した(JMDN コード: 38819001)。

3. 大腸カプセル内視鏡による下部消化管疾患に対する非侵襲的検査の普及

平成 26 年 1 月より大腸カプセル内視鏡検査が保険収載された。当院では全国に先駆けて本検査を導入しており、より簡便で負担の少ない前処置法の確立、外来での円滑な検査実施のためのシステム構築を実践し、検査のさらなる普及に取り組んでいる。平成 27 年度は前処置法の検討について報告した。平成 28 年度は潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患における有用性を検討し報告する。

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道